



アジア大会MTB男子スタート直後(先頭は銀メダルの山本)

シクリスムエコー No.176 2010年12月／2011年1月合併号

新年のご挨拶

平成23年の幕開けにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。平素は本連盟の諸事業にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、3月にデンマークで開催されたトラック世界選手権のスクラッチレースで盛 一大選手が、中距離種目として史上初の銅メダルを獲得し、日本選手としては17年ぶりの嬉しいメダルの獲得となりました。また、9月にオーストラリアで開催されたロード世界選手権で、新城幸也選手が9位に入る素晴らしい活躍を見せてくれました。

今年は8月に「第26回ユニバーシアード競技大会」が中国・深圳で開催されます。自転車競技は28年ぶりに復活いたします。秋には、トラックレースファン待望の屋内250m自転車競技場が静岡県伊豆市・日本サイクルスポーツセンターに完成する予定で、10月に「第14回全日本自転車競技選手権大会トラック・レース」をこの新しい競技場で開催いたします。さらに11月には鹿児島県鹿児島市で「第75回世界室内自転車競技選手権大会(サイクルサッカー、サイクルフィギュア)」が開催されるなど、国内外と話題が豊富な年になりそうです。

ロンドン・オリンピックまで1年8ヶ月を切り、出場枠をかけての戦いがすでに昨年からはじまっております。まず出場枠獲得を目標に国際大会でのポイント獲得のため、選手、関係者一同が精力を傾けて大会や強化合宿に臨んでおります。

また一方、本連盟は、国が行う公益法人制度改革に伴い、公益財団法人格の取得を目指し、現在対応を検討しております。組織の見直し、財政基盤の整備、各事業の検討を行い、急務となる財源の確保にも力を入れ、JCFの将来に向けて改革を積極的に行う予定であります。どうか皆様方の倍旧のご指導、ご支援をたまわりますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年も皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。(財団法人日本自転車競技連盟 会長 岩橋昭一)



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

<http://ringring-keirin.jp>

第16回アジア競技大会

日本選手団、金メダル獲得できず。



銀メダルの男子チームスプリント

トラックレース

<男子チームスプリント>

予選1位の中国との差は0秒449、4月のアジア選手権では予選を1位で上がりながら決勝戦で中国に逆転を許した日本チームは雪辱に燃えて逆転勝利を目指し3人が夫々に秘策を持って決勝戦に臨んだ。

成田はスタートダッシュを活かすべくギヤを下げ、渡邊・新田はギヤを上げてロングスプリントに賭けての勝負に出たが、スタートは18秒085と目標タイムの17秒台に届かず、第2走13秒151、第3走13秒397と予選タイムを短縮したが0.204及ばず2位となった。

<男子スプリント>

●1/2決勝

北津留は対アワン(MAS)との3本目、アワンの先行を最終周1センターでインを掬って抜け出し先行して逃げ切り、決勝戦へ。

新田は予選1位上がりのZhang(CHN)のスピード、テクニックに連敗し3-4位決定戦へ。

●決勝戦

1回戦、北津留は2周目2センターでZhangの後から一気に仕掛け逃げ切りを図るが、最終バックで捕らえる。

2回戦、Zhangは2周目1コーナーで北津留の後からインを突いて先行、北津留は反応が遅れ2位。

●3-4位決定戦

ロングスプリントを得意とする新田が1・2回戦共アワンに逃げ切り勝ちで3位。

<女子500mタイムトライアル>

前田は49×14とギヤを上げて勝負に挑んだが、持ち味のスタートダッシュが利かず自己ベストの更新とメダルの獲得は出来なかった。

<女子スプリント>

●200mFTT

前田は11位(11.954)で1/8決勝へ、沼部は14位(12.744)で予選落ち。

●1/8決勝

前田はLin(CHN)に敗退。敗者復活戦では逃げきり1位ゴールしたが、最終周2センターでの妨害行為で降格。

<男子ケイリン>

●1回戦

1組、渡邊は後方の混戦を尻目にマイペースの先行で逃げ切り2回戦へ。

2組最終周、Zhang Miao(CHN)、アワンの並びで先行、浅井は3番手からの追込み勝負となったが伸び足を欠き3位で敗者復活戦へ。敗者復活戦は果敢に先行するも、未足が伸びず3位と敗退した。

●2回戦

渡邊の後はヌグ、アワン(共にMAS)。ラスト2周を先行して逃げ切り決勝へ。

●決勝戦

中国、マレーシア各2名とイランで、渡邊は単騎での闘いとなった。勝負所の最終周1コーナー落車のアクシデントを避けるために大きなロスもあって4位でメダルを逃した。(班目)

<男子個人追抜競走>

元砂が13位、西谷が10位と、予選通過ラインの8位までに入れず。それぞれ目標としたタイムからは3~10秒遅れてしまったが、元砂は自己ベスト



男子スプリント銀メダルの北津留

男子スプリント銅メダルの新田（先頭）



トを更新し、調子の良さを伺わせた。上位選手の走りは1km通過時までは大差がないが、その後ハイペースで最後まで維持できるパワーとスタミナを持ち合わせており、その点を見据えて、今後の強化を図る必要を感じた。

<女子個人追抜競走>

萩原が9位、上野が10位と、予選通過ラインの8位までに入れず。両者ともに自己ベストだったが、上位選手と比較すると、トップスピードの差が歴然で、筋力強化を重点とした、より一層のパワーアップを図る必要を感じた。

<男子団体追抜競走>

日本（元砂、西谷、盛、佐々木）は予選を6位で通過、1回戦で中国と対戦することとなった。予選の走りを分析し、各選手の役割を再度確認し、前半からハイペースで飛ばしタイム差で約6秒ある中国に競り勝つことを目指

して臨んだ。しかし、風邪から回復したものの調子が今ひとつの佐々木がハイペースに対応できず、前半で3名となってしまい、驚異的なスピードで追いついてきた中国に追抜かれ負けを喫してしまった。また、危険な動きをしたことで失格と判定され、最終順位が残らない結果となってしまった。上位チームが3.8倍～4倍のギア比を使用していたことに比べ、日本は3.5倍と明らかに小さく、その点を踏まえて今後のトレーニングを行う必要を痛感した。

<男子ポイントレース>

西谷、盛ともに前半から積極的に展開しポイントを重ねたが、特に盛は中盤にトップの位置につけただけに、期待が高まったが、後半で思うように加点できず、盛6位、西谷8位の成績となった。結果からみると、ダブルエースで最後まで走りきった日本に対し、エースとサポートの役割がうまく機能した国が上位成績を獲得した。両者ともメダルを獲得する力は十分あっただけに惜しまれる結果であった。

<女子ポイントレース>

萩原と上野が出場。前半に力を温

存し、後半勝負を狙う作戦だったが、不運にも前半で両者落車に巻き込まれてしまった。復帰するも萩原は再度落車しDNF。上野は復帰後、積極的にポイントを重ねたが、前半の不利を克服することができず5位となった。復帰してからの上野の走りがすばらしかっただけに、悔やまれるレース展開であった。（吉井）

女子500mTT 6位の前田



女子スプリント予選の沼部



男子ケイリン4位の渡邊（先頭）



男子ケイリン13位の浅井（左）



男子ポイントレース 6位の盛(左)と8位の西谷(右)



女子ポイントレース 5位の上野(中央)



男子団体追抜の日本

【競技結果】

第16回アジア競技大会トラックレース
(2010/11/13-17 中国・広州自転車競技場)

男子スプリント

- 1 ZHANG Lei CHN
- 2 北津留 翼 JPCA 福岡
- 3 新田 祐大 JPCA 福島
- 4 AWANG Azizulhasni MAS

男子ケリ

- 1 AWANG Azizulhasni MAS
- 2 NG Josiah MAS
- 3 ZHANG Miao CHN
- 4 渡邊 一成 JPCA 福島
- 13 浅井 康太 JPCA 三重 1回戦敗退

男子4km個人追抜競走

- 1 JANG Sunjae KOR 4:30.298

- 2 CHEUNG King Lok HKG 4:37.543
- 3 LI Wei CHN 4:37.458
- 10 西谷 泰治 愛知 愛三工業 4:39.277
- 13 元砂 勇雪 奈良 鹿屋体育大 4:43.147

男子ポイントレース(30km)

- 1 TUYCHIEV Vladimir UZB 71p
- 2 WONG Kam Po HKG 60p
- 3 SOHRABI Mehdi IRI 60p
- 6 盛 一大 愛知 愛三工業レーシング 52p
- 8 西谷 泰治 愛知 愛三工業レーシング 46p

男子チームスプリント

- 1 中国 CHENG C./ZHANG L./ZHANG M. 44.429
- 2 日本 成田・新田・渡邊 44.633
- 3 イラン F. JADIAN F./PARASH M./VARPOSHTI H. 44.815
- 4 マレーシア MD YUNOS M.E./NG J./TISIN M.R. 45.175

男子4km団体追抜競走

- 1 KOR CHO H.S./HWANG I./JANG S./PARK S.H. 4:07.875
- 2 HKG CHEUNG K.L./CHEUNG K.W./CHOI K.H./KWOK H.T. 4:10.859
- 3 CHN JIANG X./LI W./WANG M./WANG J. 4:11.349
- 日本 盛・元砂・西谷・佐々木 1回戦失格

女子500mタイムトライアル

- 1 LEE Wai Sze HKG 33.945
- 2 GUO Shuang CHN 34.152
- 3 HSIAO Mei Yu TPE 35.440
- 6 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大 36.033

女子スプリント

- 1 GUO Shuang CHN
- 2 LIN Junhong CHN
- 3 LEE Wai Sze HKG
- 11 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大学
- 14 沼部早紀子 静岡 マットローチェ ARIAKE

女子3km個人追抜競走

- 1 JIANG Fan CHN 3:38.768
- 2 LEE Min Hye KOR 3:40.330
- 3 WU Chaomei CHN 3:46.281
- 9 萩原麻由子 大阪 CB あさひ 3:55.356
- 10 上野みなみ 青森 鹿屋体育大 3:55.620

女子ポイントレース(30km)

- 1 LIU Xin CHN 34p
- 2 WONG Wan Yiu HKG 27p
- 3 NONTASIN Chanpeng THA 25p
- 5 上野みなみ 青森 鹿屋体育大学 10p
- 萩原麻由子 大阪 CB あさひ DNF

— MTB —

●女子クロスカントリー

スタート直後、中国のSHI、RENに続き片山、韓国のCHOI、中込が続く。その後、CHOIが片山を抜き3番手につくが、次の周には抜き返し、メダル圏内に戻る。しかし片山と上位2名との差は広がる一方で、最終的には銅メダルを獲得したものの、1位のRENとの差は15分近くになり、中国の圧倒的な力を見せつけられた。

●男子クロスカントリー

国内での大会同様、山本が先頭を切ってスタートする。そして、CHAN (HKG)と中国のWANG、DUANと山本が先頭グループを形成。そこからCHANが抜けだし、WANGと山本が追う。その後、山本はCHANに追いつき、一時はリードもしたが、また2人になる。結局、最終周後半にCHANに先行され、残念ながら金メダルを逃した。

【競技結果】

第16回アジア競技大会 マンテパイク
(2010/11/18 中国・大夫山)

男子クロスカントリー (43.2km)

- 1 CHAN Chun Hing HKG 2:11:33.913
- 2 山本 幸平 北海道 アンカー 2:11:49.144
- 3 DUAN Zhiqiang CHN 2:14:06.595
- 4 平野 星矢 長野 アンカー 2:19:49.321

女子クロスカントリー (32.4km)

- 1 REN Chengyuan CHN 1:46:35.824
- 2 SHI Qinglan CHN 1:53:07.999
- 3 片山 梨絵 神奈川 Specialized 2:01:15.631
- 5 中込由香里 長野 SY-Nak 2:06:10.949



MTB 男子 銀メダルの山本



MTB 男子 4位の平野



MTB 女子 5位の中込



MTB 女子 銅メダルの片山

— BMX —

●予選

参加国は5カ国。男子予選は各国1名ずつに分かれて2組、各組5名。予選落ち1名と厳しいレース。女子予選は1組で1名予選落ち。男子は1組に三瓶、2組に坂本、女子は飯端、三輪が出場。

坂本、三瓶、三輪の3名は予選通過、飯端は予選2ヒート目の転倒負傷で、リズムを崩し予選敗退。

●男子決勝

坂本、三瓶両名共にスタートミス。その後、第1コーナーで坂本、三瓶が上手くイン側へ連なり、男子ジャンプセクションで坂本が中国選手2名と香港選手1名をパス。続いて三瓶も第3ストレートで坂本の背後に付いて、最終ストレートまで1位走行のスティープン・ウォン(HKG)を追いかけるが僅か届かず。2位 坂本、3位 三瓶。

●女子決勝

三輪は予選時から足が回っていない中で、スタートミスを喫してしまうが、第1コーナーでイン側からの中国選手をブロックし、上手く2位へ浮上。しかし、最終コーナー辺りから足に乳酸が溜まり始めて、思う様に漕ぎきれてい

ない。追いつけてきた中国選手との戦いになり、気力を振り絞って最後のゴールスプリントで逃げ切り2位となる。

●総評

個々のミスが多く前半に力を使い過ぎる場面が多かったが、無理な追い抜きをせずスピードに乗ったままラインを見て、尚且つ冷静に判断し抜く事ができ、成長した場面も見られた。

今後、コース対応力、低空飛行ジャンプなども含め、もっとトレーニング方法を変えて行かなくてはならない。また、日本選手に他国選手に抜かされる危機感が無いことも問題であろう。

(BMX強化コーチ 宮城 力)

【競技結果】

第16回アジア競技大会 BMX
(2010/11/19 中国・広州自転車競技場BMXコース)

男子

1	WONG Steven P.m.j. HKG	30.337
2	坂本 章史 大阪 UnAuthorized	31.379
3	三瓶 将廣 神奈川 REDLINE	31.466

女子

1	MA Liyun CHN	36.662
2	三輪 郁佳 広島 FreeAgent	37.802
3	YUE Cong CHN	37.916

飯端 美樹 大阪 STAATSJ. 予選敗退

BMX 男子 銀メダル⑮坂本と銅メダル⑯三瓶



BMX 女子 銀メダル④三輪と③飯端

— ロードレース —

<個人タイムトライアル>

トラック種目に参加した盛と萩原が引き続き参加。共にタイムトライアルのトレーニングが不十分だったため、メダル獲得には届かなかった。

<個人ロードレース>

●男子ロードレース

鈴木、宮澤の2名が参加。スタート直後から韓国とチャイニーズタイペイの選手が、集団から飛び出し逃げる。後続集団はアタック合戦となり、インターバルのかかる激しいレース展開となるが、トップを走る2名とのタイム差が詰まらない事から、ウズベキ、カザフ、キルギスが協力して集団をコントロールしトップ2名を追い走する。

逃げていたチャイニーズタイペイの選手が脱落しメイン集団に吸収されると、再び集団からのアタック合戦が始まり、宮澤を含む6名の選手が抜け出し、トップを独走していた韓国選手を吸収。そこから宮澤とホンコンチャイナの選手がアタック。直ぐに追走してきたウズベキ、中国と4名のトップ集団となった所に、韓国選手が単独で追いつき、ラスト5kmで5名のトップ集団。メイン集団とのタイム差10秒で逃げるが、ラスト1kmで惜しくも吸収され大集団のゴール勝負となった。

宮澤は3位でゴール。1位でゴールしたPARK (KOR) が2位のWONG (HKG) を走路妨害したとして降格。3位から2位に繰り上がり、銀メダルを獲得した。大会前のレースで落車した鈴木は12位でゴール。終始宮澤のアシストとしてサポートし、メダル獲得に貢献した。

●女子ロードレース

西、萩原の2名が参加。インドとインドネシアの選手が前半から逃げるレース展開となった。

中盤に韓国と中国が追いかけるレース展開の中、日本もアタックして集団から抜け出す展開を作ろうとしたが、抜け出す事が出来ないまま、終盤逃げていた2名の選手がメイン集団に吸収される。

再びトップ集団から抜け出すためアタックを繰り返すが、マークが厳しく直ぐに集団に吸収されてしまい、集団ゴール勝負となり、スプリント力のない萩原は12位、西は16位でゴール。逃げるレース展開を作れずメダル獲得は出来なかった。

男子ロード銅メダル⑬宮澤と⑱鈴木

<総評>

個人TTは男女共に、今後十分な強化を図らなければならない。

男子ロードは十分な強化合宿が出来た結果、メダル獲得に至った。故障者をレースに出さなければならなかった状況は、今後柔軟に対応できるようにしなければならない。

女子ロードは、前回の大会で金メダルを獲得していたため、各国の厳しいマークにあり、思うようなレース展開が出来なかった。ゴールスプリントが弱く今後、重点的に強化しなければならない。(強化コーチ 高橋松吉)

【競技結果】

第16回アジア競技大会ロードレース
(2010/11/20-22-23)
中国・広州大学城トライアスロンコース

男子個人タイムトライアル (53.4km)

- 1 CHOE Hyeongmin KOR 1:08:16.129
- 2 WACKER Eugen KGZ 1:08:26.917
- 3 ASKARI Hossein IRI 1:08:48.498
- 7 盛 一大 愛知 愛三工業 1:11:44.609

女子個人タイムトライアル (35.6km)

- 1 LEE Min Hye KOR 49:38.357
- 2 JIANG Fan CHN 50:04.627
- 3 NONTASIN Chanpeng THA 51:37.115
- 5 萩原麻由子 大阪 あさひ 53:11.698

男子個人ロードレース (180km)

- 1 WONG Kam Po HKG 4:14:54.182
- 2 宮澤 崇史 長野 NIPPO 4:14:54.182
- 3 ZOU Rongxi CHN 4:14:54.182
- 12 鈴木 真理 JPCA シノ 4:14:54.182

女子個人ロードレース (100km)

- 1 HSIAO Mei Yu TPE 2:47:46.12
- 2 TRI KUSUMA Santia INA 2:47:46.52
- 3 ZHAO Na CHN 2:47:46.63
- 14 萩原麻由子 大阪 あさひ 2:47:49.50
- 16 西 加南子 千葉 Luminaria 2:47:50.43



女子ロードの萩原(左から3番目)と西(左から4番目)



男子個人TT 7位の盛



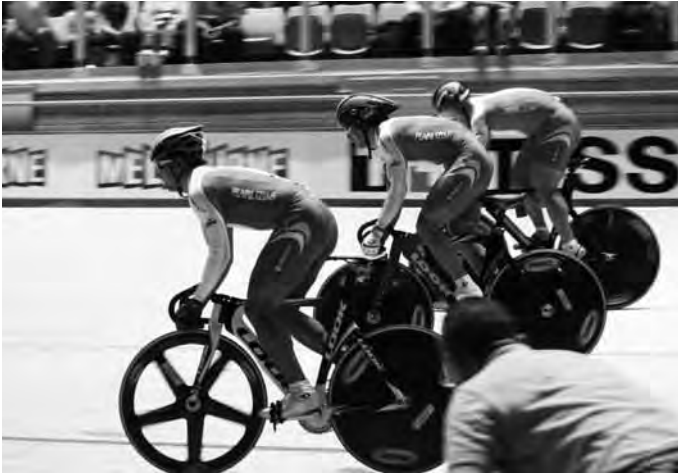
女子個人TT 5位の萩原

'10-'11UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#1



北津留スプリント4位

チームスプリント



<チームスプリント>

雨谷、渡邊、北津留の初オーダーで臨む。初めてのワールドカップとなった雨谷は、緊張も無く落ち着いてスタート…。タイミングも良くダッシュも切れて17秒887と好タイムで第2走者へ繋ぐ。続く渡邊は13秒184、最終走者北津留も13秒663と踏ん張って、トータルタイム44秒731は惜しくも5位で順位決定戦へは進めず。

<ケイリン>渡邊一成

1回戦、2回戦と1着で幸先良く勝ち上がり、好結果が期待された。

大外から良いスタートを決めたサンダーランドが先頭に立ち、ブルガン→ホイ→ムルダー→ヴォリカキスと続き、渡邊は好位を取れず、最後方からの展開となる。ペーサー退避前サンダーランド、ブルガン、ホイ、ムルダー、5番手からヴォリカキスが上がりレースが動き出す。残り2周のホームで渡邊が先頭に立つが、すかさず2コーナーからブルガンが仕掛けヴォリカキスが



ケイリン

くと、ジャンの4コーナーからホイ、ムルダーで発進。残り半周でホイが先頭に立つと渡邊はこの時点で後方に置かれる。そのままホイとムルダーが後方との差を広げてゴールして、ホイの圧

勝となった。渡邊は6着。

<スプリント>北津留翼

予選タイム10秒213、9位で勝ち上がり、1/4決勝で1番タイムのケビン・シローと対戦。1本目はジャンの4コーナー先行するシローの後位から仕掛け、1コーナーで交わして逃げ切ったが、競走妨害で降格。2本目は最後まで勝負を諦めず、ゴール前で気を抜いたシローを抜き去って勝利した。3本目は気落ちしたシローの先行を追い込んで勝負をものにした。

1/2決勝はジェイソン・ケニー、3-4位決定戦でテューン・ムルダーと対戦した北津留だったが、シローとの死力を尽くした戦いで力を使い果してしまったのか、共にストレート負けをきってしまい4位に終わった。

今回の結果を見ると、渡邊のケイリンに於けるレース捌きの巧さ、北津留のトップスピードと勝負強さ、又新人ながら雨谷のスタートダッシュ力には目を見張るものがあった。チームスプリント第1走者としての17秒887は好タイムで、渡邊、北津留と共に今後、ストレングス及びフィジカルを強化する事で、世界でも戦える、ダッシュ力とトップスピードを身に付ける可能性を秘めている。(班目)

<オムニアム女子>田畑真紀

エントリー29名であったため、ポイントレースによる予選が実施された。初の国際大会であったこともあり、レース中、思うように展開できずにいたが、残り周回10周を切ったところで、単独で抜け出し最終ポイントを獲得。無事予選を通過した。本戦、最初の種目、250mフライングラップは、15秒417で16位。2種目目のポイントレースは積極的に動くも、結果は14位。1日目最後の種目エリミネーションでは、事前に経験豊富な盛からのアドバイスを受けその通りに走ったこともあり、11位と健闘した。

2日目に入り、最初の種目は3km個人追抜競走。3分50秒を目標に走るが、後半ペースが落ち、3分55秒827で18位。競走種目最後のスクラッチは、エスケープに乗り他選手をラップすることを目標に走るが、決定的な展開にならず、全選手でのゴール勝負は後方に取り残され20位となる。最後の種目500mTTは38秒196で自己ベストを大幅に更新したが、15位にとどまった。結果、総合順位は17位。スペインのOlaberria Dorronsoroが、世界チャンピオンのWhitten(CAN)に競り勝ち優勝。初の自転車レース参加が2ヶ月前であった田畑にとっては、経験不足が心配されたが、スケートで培った体力と精神力をベースに、タフなレースを見事に走り切った。この経験を生かして、今後の国際大会で更なる活躍を期待したい。

<オムニアム男子>盛 一大

予選を順調に勝ち上がり、最初の種目250mフライングラップは、13秒909で16位。次のポイントレースは、中盤に他選手をラップする走りで9位。エリミネーションはレース巧者振りを発揮し、道中楽に進めるが、これからというところで行き場を無くして10位。余力を残したままで終ってしまったのは残念であった。

2日目の最初の種目、3km個人追抜競走は4分49秒698で22位。本人も自覚していたがこの種目での差は歴然としており、最低でも4分35秒を切るタイムを出せるようでない、上位は期待できないだろう。5種目目

2010年世界室内自転車競技選手権大会

グループA 復帰ならず



世界室内自転車選手権大会はドイツ・シュツットガルトにおいて、11月26日より3日間行われた。20日に日本を発った選手団は、ドイツ・フランクフルトのスポーツ学校で3日間の事前調整したのち、24日にシュツットガルトに移動した。今年の開催地であるシュツットガルトは、自動車工業の盛んな都市として知られているが、3日間にわたる選手権大会は、メルセデスタジアムに隣接したポルシェアリーナが会場となっている。

25日は2011年の開催地、鹿児島市の森博幸市長がプレゼンテーションを行い、アリーナ内にブースを設けて芋焼酎の試飲会やら日本手拭の配布等、大いに宣伝活動を行った。あとは、試合で好成績を残すのみとなった。

サイクルフィギュアは、初日の男子シングルの芝山耕輔は時間を余す余裕のパフォーマンスを発揮し、自己最高の50.95点を獲得した。また、それに続けとばかりに2日目の芦田史朗も、世界選手権での自己最高の102.60点を獲得し、それぞれ21位

と14位となり、昨年の順位も上回った。また、女子シングルの佐藤風沙も、47.00点と昨年の成績を大きく上回り、順位も19位と昨年の期待を裏切らない成績を残してくれた。この調子を持続し来年の鹿児島大会で、今年以上の成績を期待したい。

サイクルサッカーの藤田/時倉組は、マレーシアとのオープニングゲームを皮切りに、グループB1のスペイン、スロバキアと順当に勝ちぬぎ、2日目のグループBの決勝戦へと進んだ。来年の世界選手権の日本開催に向け、グループAへの復帰が期待されたが、グループBでの決勝でルーマニアに1対2で敗れ、フランスとの入替戦へ進めないという結果になった。ここ一番のセットプレイでの得点ができなかつ

たことが、大きな敗因であった。来年の鹿児島大会までに立て直しが必要であろう。

こうして3日間の大会を終え、寒波の押し寄せる雪のフランクフルトを、帰国の途に就いた。(井上 徹)

【競技結果】

2010年世界室内自転車競技選手権大会 (2010/11/26-28 ドイツ・シュツットガルト)

サイクルサッカー-グループA

- 1 Berner Uwe / König Matthias GER
- 2 Jiricek Peter / Waldispühl Marcel SUI
- 3 Schneider Dietmar / Schnetzer Patrick AUT
- 4 Hason Radim / Hrdlicka Jiri CZE
- 5 Baudu Christoph / Deuvaert Rik BEL
- 6 Bauer Stéphane / Doell Frédéric FRA

サイクルサッカー-グループB

- 1 Doroftei Dorian / Tric Mircea ROU
- 2 藤田 洋介 / 時倉 宗大 JPN
- 3 Monge Florencio / Prieto Carlos ESP
- 4 van Dejk Jos / van Dejk Karel NED
- 5 Ho Wing Tai / Kwan Chun Hin HKG
- 6 Czekus Tamas / Hanko Attila SVK

サイクルフィギュア 男子シングル

- | | | | |
|----|------------------|-----|-------------|
| 1 | SCHNABEL David | GER | 206.57 (WR) |
| 2 | BLAB Florian | GER | 200.16 |
| 3 | WONG Hang Cheong | MAC | 160.30 |
| 14 | 芦田 史朗 | JPN | 102.60 |
| 21 | 芝山 耕輔 | JPN | 50.95 |

サイクルフィギュア 女子シングル

- | | | | |
|----|-----------------------|-----|--------|
| 1 | BOLLER Denise | AUT | 170.63 |
| 2 | KLEINSCHWÄRZER Marion | GER | 165.64 |
| 3 | HEIN Corinna | GER | 157.82 |
| 19 | 佐藤 風沙 | JPN | 47.00 |

- | | | | |
|----|------|-----|----|
| 16 | 盛 一大 | JPN | 82 |
|----|------|-----|----|

男子チームスプリント

- | | | | |
|---|---------------|-----|--------|
| 1 | イギリス | GBR | 43.829 |
| 2 | ニュージーランド | NZL | 44.339 |
| 3 | JAYCO-AIS JAY | | 44.545 |
| 5 | 日本 雨谷・渡邊・北津留 | | 44.731 |

女子スプリント

- | | | | |
|----|--------------------|-----|------|
| 1 | MEARES Anna | AUS | |
| 2 | PENDLETON Victoria | GBR | |
| 3 | VOGEL Kristina | GER | |
| 29 | 前田佳代乃 | JPN | 予選敗退 |

女子ケリッ

- | | | | |
|----|------------------|-----|--|
| 1 | EARES Anna | AUS | |
| 2 | MCCULLOCH Kaarle | JAY | |
| 3 | SANCHEZ Clara | FRA | |
| 19 | 前田佳代乃 | JPN | |

女子仏二ツム

- | | | | |
|----|----------------------------|-----|----|
| 1 | OLABERRIA DORRONSORO Leire | ESP | 26 |
| 2 | WHITTEN Tara | CAN | 31 |
| 3 | WOJTYRA Malgorzata | POL | 40 |
| 17 | 田畑 真紀 | JPN | 94 |



のスクラッチは、本人の最も得意な種目。レース展開を読む力は抜群で、6人でのラップに成功。しかしその後スタミナ切れし、結果は6位。最後の1kmTTは自己ベストの1分7秒703で走るも、19番目のタイム。総合16位で全レースを終えた。優勝はニュージーランドの若手、Archbold。全種目をすべて5位以内で走る安定した成績を残した。

オムニウムはタイム系の3種目と、競走系の3種目で構成されている。結果から分析すると、タイム系の3種目で安定した成績を残している者が上位にきており、独走力のある選手であることが第一条件であると言えよう。盛に関しては競走系の種目で上位に食い込んでおり、タイム系の種目で力量が

アップすることで、大きな躍進が期待できると言えよう。(吉井)

【競技結果】

'10-'11UCIトラック・ワールドカップ・クラシックス#1 (2010/12/2-4 オーストラリア・メルボルン)

男子スプリント

- | | | | |
|----|---------------|-----|------|
| 1 | PERKINS Shane | JAY | |
| 2 | KENNY Jason | GBR | |
| 3 | MULDER Teun | NED | |
| 4 | 北津留 翼 | JPN | |
| 18 | 渡邊 一成 | JPN | 予選敗退 |

男子ケリッ

- | | | | |
|---|------------------|-----|--|
| 1 | HOY Chris | GBR | |
| 2 | MULDER Teun | NED | |
| 3 | BOURGAIN Mickaël | FRA | |
| 6 | 渡邊 一成 | JPN | |

男子仏二ツム

- | | | | |
|---|----------------|-----|----|
| 1 | ARCHBOLD Shane | NZL | 24 |
| 2 | BELL Zachary | CAN | 31 |
| 3 | CLANCY Edward | GBR | 35 |

第41回全日本室内自転車競技選手権大会

女子サイクルフィギュア堀井が日本新記録!



決勝戦は関西大学が3-2とリードして前半を終える。そのまま逃げ切ることができれば学生勢としては23年ぶりの全日本制覇となるが、後半に

ルーレイクエンジェル)が抜きん出ており、その通り両選手が優勝となったが(堀井は76.17の日本新記録)、まだまだ持ち点で世界との隔たりは大きい。しかしながら今年の世界選では男子シングルでマカオの選手が3位を獲得し、アジア勢でも十分世界で戦えることを証明した。今大会に出場した4名の小学生選手の今後の成長と、10名の参加を得たことによる全体のレベルアップに期待したい。

(JCF 広報部会委員 村田)

来年は10年ぶりに世界選手権が日本(鹿児島)で開催される室内自転車競技であるが、その国内チャンピオンを決める第41回全日本室内自転車競技選手権大会が、12月11、12日に東京工業大学体育会で開催された。

サイクルサッカー準決勝2試合は、ともに延長戦となる白熱した試合となった。第1試合は激しいシーソーゲームの末、関西大学Aチーム(合田昌司・村上裕亮)がいよかん(田中識史・平野賢)に競り勝ち、大学勢としてこの大会16年ぶりの決勝進出を決めた。第2試合は今年の世界選手権代表の座を争った、蔵前(時倉宗大・藤田洋介)と金剛東京(木下直也・松田鋼)の対戦。2回の延長戦(5分間)でも互いに譲らず、PK戦もサドンデスの接戦となったが、5本目のPKで金剛東京の松田が熱戦に決着をつけた。

入り金剛東京が2点を加え3-4と逆転する。このまま金剛東京の優勝かと思われた終了間際、関西大学がシュートを決めてタイスコアに持ち込み、準決勝に続き決勝も延長戦となった。しかしながら関西大学の健闘もここまで、延長戦では金剛東京が一気に4点を奪い、4-8で4年連続の全日本制覇を遂げた。

3・4位決定戦はスコア2-3と接戦の末、蔵前がいよかんに勝利したが、上位4チームはどこが優勝してもおかしくないレベルの高い争いだった。来年の世界選手権に向け各チーム切磋琢磨することで、是非ともAグループ復帰を果たしてもらいたい。

サイクルフィギュア・シングルには男子4名、女子6名の10名が出場した。演技の持ち点から男子は芦田史朗、女子は堀井和美(ともに京滋C.F.Cブ

【競技結果】

第41回全日本室内自転車競技選手権大会
(2010/12/11-12 東京工業大学体育館)

サイクルサッカー

- 1 金剛東京 木下 直也・松田 鋼
- 2 関西大学A 村上 裕亮・合田 昌司
- 3 蔵前 藤田 洋介・時倉 宗大
- 4 いよかん 平野 賢・田中 識史
- 5 SFC アンジー 田中 勝也・三須 友晶
- 6 CCK サンデー 手島 敏光・現王園仁志

サイクルフィギュア男子シングル

- 1 芦田 史朗 京滋 CFCブルーレイク 109.00
- 2 芝山 耕輔 東京輪球会 56.88
- 3 中川 凱公 京滋 CFCブルーレイク 25.01
- 4 縄田 末雄 バイクルフィギュア07 23.78

サイクルフィギュア女子シングル

- 1 堀井 和美 京滋 CFCブルーレイク 76.17
- 2 佐藤 凧沙 SFC アンジー 58.10
- 3 田中絵美梨 京滋 CFCブルーレイク 32.19
- 4 川原 菜摘 京滋 CFCブルーレイク 31.70
- 5 近藤 菜月 京滋 CFCブルーレイク 29.75
- 6 上島 美音 京滋 CFCブルーレイク 27.18

日本航空
Dream Skyward. JAL

世界の空でお会いしましょう。

www.jal.co.jp

第16回日韓対抗学生自転車競技大会

団体総合優勝は大韓民国



今年で16回目となる2010年日韓対抗学生自転車競技大会が、11月6日・7日に大阪の岸和田競輪場で開催された。今回の韓国選手団は、選手団20名のほかオブザーバー9名の合計29名が来日した。

11月6日は午前9時から公式練習、10時から競輪場内で監督会議、12時から快晴のもと開会式がバンク内で行われ、13時からいよいよ競技が開始された。初日の決勝種目では、個人追抜競走の男子大学部で窪木(日大)、男子高等部で橋本(岐南工)、女子の部で田中(日体大)が優勝したが、逆にタイムトライアルでは3種別全てで韓国の選手が優勝した。

初日の競技終了後、18時30分より競輪選手宿舎の食堂で歓迎レセプションが行われ、多くの方が参加し両国の友好を深める機会となった。

11月7日は午前8時から公式練習、競技は9時30分から行われた。

最初のスプリント順位決定戦では古庄(日大)が男子大学部で優勝したがその他の種別は韓国の圧勝だった。

その後、団体種目が行われた。団体種目は、各カテゴリーで実施種目が決まっており、高校はチームスプリント、大学は団体追抜、女子はチームスプリントが行われた。結果は、団体種目全て韓国チームが勝利し、今回はチーム力の差を見せつけられた感があった。この後のケイリン決勝では、韓国選手3名に表彰台を独占された。

最後は参加選手全員が出場するポイントレースで、女子では近藤(鹿屋体大)が優勝。男子の優勝は韓国の高校生だった。

以上で全ての競技が終了し表彰式・

閉会式が行われ、日本チームの最優秀選手には窪木(日大)が選ばれた。また団体総合では韓国チームが86点对67点で日本チームに勝利し優勝カップが韓

国チームの代表に授与された。最後に全員で記念撮影があり、日韓の親善交流を目的とした今年の大会も大いなる成果のうちに終了した。今回は、特に短距離種目で韓国との力の差を強く感じた。日本と韓国の力の差はますます広がる傾向にあると思う。

11月8日の朝、韓国選手団は宿舎を出発し、昼過ぎの便で関西国際空港を発ち無事に帰国した。来年のこの大会は韓国で開催の予定だ。

(高体連理事長 坂井田 米治)

【競技結果】

第16回日韓対抗学生自転車競技大会 (2010/11/6-7 大阪・岸和田競輪場)

男子大学部

スプリント

- 1 古庄 豊全 JPN 日本大学
- 2 JUNG HAE MIN 韓国體育大學
- 3 野口 大誠 JPN 中央大学

1km タイムトライアル

- 1 KIM JE YOUNG 韓国體育大 1:07.301
- 2 野口 大誠 JPN 中央大学 1:08.494
- 3 窪木 一茂 JPN 日本大学 1:08.865

4km 個人追抜競走

- 1 窪木 一茂 JPN 日本大学 4:49.392
- 2 入部正太郎 JPN 早稲田大学 4:59.010
- 3 KIM DONG YI 昌原大學 5:05.378

4km 団体追抜競走

- 1 大韓民国 4:36.211
- 2 日本 窪木・古庄・今井・入部 4:37.835

男子大学 + 高等

ケイリン

- 1 KIM JUNG YEOL 東大田高校
- 2 JUNG HAE MIN 韓国體育大學
- 3 KIM JE YOUNG 韓国體育大學
- 4 清水 裕友 JPN 誠英高校
- 5 野口 大誠 JPN 中央大学
- 6 今井 一樹 JPN 早稲田大学

ポイントレース (30km)

- 1 JANG JI UNG 昌原機械工業高 72p

- 2 入部正太郎 JPN 早稲田大学 64p
- 3 窪木 一茂 JPN 日本大学 58p
- 5 橋本 英也 JPN 岐南工業高校 51p
- 6 黒瀬 耕平 JPN 岡山工業高校 25p
- 野口 大誠 JPN 中央大学 DNF
- 古庄 豊全 JPN 日本大学 DNF
- 今井 一樹 JPN 日本大学 DNF
- 新山 響平 JPN 八戸工業高校 DNF
- 武藤 稔征 JPN 岐阜第一高校 DNF
- 清水 裕友 JPN 誠英高校 DNF

男子高等部

スプリント

- 1 PARK MIN CHUL 大邱體育高校
- 2 KIM JUNG YEOL 東大田高校
- 3 新山 響平 JPN 八戸工業高校
- 4 武藤 稔征 JPN 岐阜第一高校

1km タイムトライアル

- 1 KIM JUNG YEOL 東大田高校 1:07.059
- 2 新山 響平 JPN 八戸工業高 1:08.304
- 3 PARK MIN CHUL 大邱體育高 1:08.590
- 4 清水 裕友 JPN 誠英高校 1:11.161

3km 個人追抜競走

- 1 橋本 英也 JPN 岐南工業高 3:38.327
- 2 KIM HONG KI 金海建設工 3:38.616
- 3 黒瀬 耕平 JPN 岡山工業高 3:40.691

チームスプリント

- 1 大韓民国 1:18.921
- 2 日本 新山・武藤・清水 1:20.466

女子

500m タイムトライアル

- 1 KIM SUN YOUNG 進永高校 37.817
- 2 CHO SUN YOUNG 仁川體育高 38.344
- 3 小島 蓉子 JPN 日本体育大 39.652
- 4 近藤 美子 JPN 鹿屋体育大 39.841

スプリント

- 1 CHO SUN YOUNG 仁川體育高校
- 2 KIM SUN YOUNG 進永高校
- 3 近藤 美子 JPN 鹿屋体育大学
- 4 丸田 京 JPN 共立女子第二高校

2km 個人追抜競走

- 1 田中 まい JPN 日本体育大 2:41.020
- 2 中村 友香 JPN 奈良北高校 2:43.784
- 3 OH HYEON JI 全北體育高 2:44.185

ポイントレース (12km)

- 1 近藤 美子 JPN 鹿屋体育大学 22p
- 2 KIM SOL A KOR 東和高校 14p
- 3 田中 まい JPN 日本体育大学 10p
- 5 小島 蓉子 JPN 日本体育大学 2p
- 7 中村 友香 JPN 奈良北高校 1p
- 8 丸田 京 JPN 共立女子第二高 0p

チームスプリント

- 1 大韓民国 58.761
- 2 日本 近藤・小島 1:01.879

対抗得点

- 1 大韓民国 86p
- 2 日本 67p

第16回全日本シクロクロス選手権大会

男子は辻浦が9連覇、女子は豊岡が6連覇!



男子のスタート

12月12日、風が冷たく時折霧雨が降る中、滋賀県野洲のピワコマイアミランド特設コースで、第16回全日本シクロクロス選手権大会が開催された。男女とも連覇が続く今大会、今年度よ

リジュニア部門も新たに設定された。まず9時にジュニアがスタート。スタート直後から沢田が先行し、2位に3分半の差をつけそのままフィニッシュ。輝かしい初代チャンピオンの座についた。

続いて10時に女子がスタート。ディフェンディングチャンピオンの豊岡が先行する。2位以下混戦の中、片山が抜け出すが、23秒差で豊岡の6連覇が決定。

最後に11時、男子がスタート。ディフェンディングチャンピオン辻浦と丸山、竹之内がトップを固める。その後、辻浦と丸山のバトルが繰り広げられ、一時は丸山が先行する。丸山も執拗に食い下がるが結局、辻浦が逃げ切り、観客とハイタッチしながら満面の笑みでフィニッシュ、9連覇を成し遂げた。そして、何と竹之内がフィニッシュ直前に丸山をかわしてガッツポーズで2位に入った。



男子3位の丸山(左)と1位の辻浦



男子2位の竹之内



辻浦のフィニッシュ



女子優勝の豊岡

【競技結果】

第16回全日本シクロクロス選手権大会
(2010/12/12 滋賀・野洲ビバコマイランド)

男子

- 1 辻浦 圭一 奈良 ブリヂストンアーカー 1:09:04
- 2 竹之内 悠 京都 ユーシアムセーウ +0:35
- 3 丸山 厚 長野 MASSA +0:40



- 4 小坂 光 長野 BLITZEN +3:04
- 5 小坂 正則 長野 スワローシング +3:18
- 6 山本 聖吾 長野 スワローシング +4:09
- 7 池本 真也 神奈川 和光機器タムラ +5:00
- 8 笥 五郎 愛知 イーメディアレント +5:19
- 9 大塚 潤 静岡 Acqua Tama +5:53
- 10 中間森太郎 埼玉 チーム埼玉県人 +6:12

女子

- 1 豊岡 英子 大阪 ハナニツクルデイズ 36:56
- 2 片山 梨絵 神奈川 Specialized +0:23
- 3 宮内佐季子 静岡 CLUB viento +2:50



- 4 福本 千佳 大阪 Ready Go J. +3:06
- 5 齋藤 磨実 神奈川 MASA +4:40
- 6 武田 和佳 埼玉 ARAI +4:49
- 7 埜真 賢美 岡山 Team クルーズ +6:18
- 8 山口 博子 石川 パワーキック +7:44
- 9 中道のぞみ 京都 Salata bianca +7:58
- 10 綿貫 通穂 埼玉 白杵レーシング +9:28

ジュニア男子

- 1 沢田 時 滋賀 ENDLESS 41:09
- 2 中井 路雅 滋賀 瀬田工高校 +3:36
- 3 大野 宏樹 広島 広島城北高 +4:16



- 4 日野林雄大 愛媛 松山工高校 +4:56
- 5 帖地 森 京都 北桑田高校 +5:37
- 6 後呂 有哉 愛知 岩井商会 R. +6:24
- 7 西尾 勇人 北海道 +8:12
- 8 山川 遼 埼玉 栄北高校 +9:09
- 9 中野 雄喜 京都 北桑田高校 +10:06
- 10 田中 良亮 京都 北桑田高校 +10:13



女子2位の片山



女子3位の宮内



ジュニア優勝の沢田(先頭)

各国際大会の選手選考について

JCF 強化本部会

●第31回アジア選手権大会・第18回ジュニアアジア選手権大会

<エリート・トラックレース>

2010年強化指定・強化育成選手を優先に、2010年の全日本選手権・アジア大会・ワールドカップ第1,2戦並びに強化合宿を参考とする。

<エリート・ロードレース>

2010年ナショナルチーム・強化指定選手を優先に、2010年の熊本国際・ジャパンカップ・ツールドおきなわ並びに強化合宿を参考とする。

<ジュニア・トラックレース>

2011年新強化指定選手を優先に、2010年12月の選考合宿を参考とする。

<ジュニア・ロードレース>

2011年新強化指定選手を優先に、2010年12月の強化合宿を参考とする。

●2011年トラック世界選手権大会

ワールドカップ第1～4戦を参考にする。

●2011年ジュニア・トラック世界選手権大会

第18回ジュニアアジア選手権を参考にする。

また、ジュニア強化指定選手の推薦資格獲得大会において日本記録を樹立した者。

●2011年ロード世界選手権大会

<エリート男女>

2011年UCIポイントランキングを基にする。2011年6月の全日本選手権も参考とする。

<U23>

2011年UCIポイントランキングを基にする。

かつ2011年6月の全日本選手権にエリートカテゴリーに出場した者の中から選考する。

<ジュニア>

2011年強化指定選手の中から強化育成合宿並びに2011年国際大会並びに6月の全日本選手権を参考にする。

●第30回オリンピック競技大会

<トラックレース>

2010～2012年のオリンピックポイントにより出場枠獲得に基づき、同ポイント獲得上位者の中で、選考会を実施し選考する。

<ロードレース>

男子：2011年UCIポイントランキングを基にする。

ポイントランキングの集計は2012年全日本選手権までとする。2012年の全日本選手権も参考とする。

[UCIポイントJCF独自の振り分け]

①ワールドカレンダーポイント

ワールドカレンダーレースに完走ポイントおよび20位までポイントを付与。

(ポイント表はJCFホームページに掲出)

②男子エリート・U23 コンチネンタルランキング

ワールドランキング登録選手がコンチネンタルランキングに参加して獲得したポイントは規定通り付与。

③大陸選手権大会

オリンピック参加枠の掛かった大会で参加枠を獲得した場合、出場選手には2位相当の70pを付与。

④2012年全日本選手権ロードレース大会

UCI「第1ランク」のポイントを付与。

女子：2012年5月31日付UCIポイントランキングを基にする。

2012年の全日本選手権も参考とする。

<MTB>

★獲得枠1名の場合

①国別ランキングによる参加枠獲得の場合

2012/5/22 付UCI 個人ランキング100 位以内、かつオリンピックフォーマットによるUCI ポイント(2010/5/23 ~ 2012/5/22)の最高獲得者。

②大陸選手権による参加枠獲得の場合

ロンドンオリンピック国内選考会(2012年度・日時・場所未定)対象者最上位の日本国籍者。

ただし国内選考会対象者は2011年度JCFナショナルランキング上位20名、2011年度XCOエリートクラス全日本チャンピオン、およびMTB小委員会推薦者(最大2名)の最大23名とする。

★獲得枠2名の場合

上記①②各1名。①②同一選手の場合、②の次点の選手を選考する。

★獲得枠3名の場合(男子のみ)

上記①②および②の次点の選手。合計3名に満たない場合、②の次々点の選手を選考する。

<BMX>

★国別枠ポイント獲得時

強化指定選手から選考。

2012年世界選手権終了時点でのUCIポイント(2010年5月6日~2012年5月28日)最高順位獲得者順。

★世界選手権大会付与時

2012年世界選手権で付与される6ヶ国については最高順位獲得者。

同順位の場合、期間中のスーパークロス(UCIクラス2)で獲得したUCIポイント上位を対象とする。

強化指定選手(男女)

- ・2011年世界選手権終了時点でのUCIポイント日本国籍者上位3名。
- ・2011年世界選手権日本国籍上位1名。(ただし決勝トーナメント進出者)
- ・2011年12月31日現在UCIポイント日本国籍上位1名。
- ・BMX小委員会特別推薦者、最大1名。

●第26回ユニバーシアード競技大会

下記選考基準に基づき、最終的にはJOC派遣人数に合わせ選考する。

<ロードレース>

- ①2010年全日本大学対抗ロードレース優勝者(男子1名、女子1名)
 - ②2011年全日本学生個人ロードレース大会優勝者(男子1名、女子1名)
 - ③2011年明治神宮外苑大学クリテリウム優勝者(男子1名、女子1名)
 - ④2010年度全日本学生ロードレースカップシリーズ総合優勝者(男子1名)
 - ⑤全日本学生選手権チームロードレース優勝チームの推薦する1名(男子1名)
 - ⑥全日本学生個人ロードタイムトライアル優勝者(女子1名)
 - ⑦上記選考大会のいずれかの大会出場者のうち、日本学生自転車競技連盟選考委員会が優秀と認める者(女子1名)
- ※辞退者あった場合、補欠が繰り上がる。補欠:男子⑥⑦、女子⑦
補欠者が更に辞退した場合、選考委員会の判断による。

<トラック・レース>

- ①2011年全日本学生選手権自転車競技大会ケイリン優勝者(男子1名)
 - ②2011年全日本学生選手権自転車競技大会スプリント優勝者(男子1名、女子1名)
 - ③2011年全日本学生選手権自転車競技大会個人追抜競走優勝者(男子1名、女子1名)
 - ④2011年全日本学生選手権自転車競技大会ポイントレース優勝者(男子1名、女子1名)
 - ⑤2011年全日本学生選手権自転車競技大会500mタイムトライアル優勝者(女子1名)
 - ⑥2011年修善寺女子カップ総合優勝者(女子1名)
 - ⑦前年度・当該年度競技成績により、日本学生自転車競技連盟選考委員会が優秀と認める者(男子2名、女子1名)
- ※辞退者あった場合、選考分野の2位が繰り上がる。
2位からの繰り上がり者が辞退した場合、選考委員会の判断による。

<MTB><BMX>

別途発表する。

“ジュニア競技者に関する指導講座”をジュニア強化育成部会から発信します。

選手、競技者として必要な要因は何だろう？

逆三角形の身体、長い腕脚、発達した筋肉？本当に必要だろうか？それ以上に選手、指導者ともに重要なことは、自転車に対する情熱・愛情、一生懸命に取り組もうとする強い欲求であると思う。さらに欲を言えば、指導者は回復の早い選手を望むだろう。これは、回復が早ければたくさんトレーニングができるということである。たくさんトレーニングを行える選手が一番強いのである。過去のナショナルチームの体力測定結果を見てみると、ずば抜けて体力要素が優れているわけではない（表1）。世界と互角に戦っているスピードスケート選手と比較してみると、シドニーオリンピック出場選手はすべての数値において低値を示している。言い方を換えれば、この程度の基礎的な体力測定値を持っていれば、気持ちでオリンピック選手になれる？そして世界で活躍できるかも？という期待を持つことができる。しかし、世界記録は常に向上し続けているのだから、世界の選手たちの基礎体力値も向上しているはずである。しかし、日本の強化選手の基礎体力はこの3大会を見ると、低下していることがわかる。一方で世界選手権大会10連覇といった偉業をなしている中野浩一選手は、約30年前であっても背筋力220kgを記録し、一年間で62kgの向上を果たしている。現在のようにウエイトトレーニングの方法が確立していた時代ではない。そんな時代であってもこれだけの数値の向上は認められ、それだけの筋力と向上心があるから世界のトップに10年間も君臨できたのかもしれない。したがって、現在の体力測定値が低から、彼、彼女は自転車選手に向かないということはない。基礎体力のみが重要なのではなく、どんなにきついトレーニングでも強くなるためならば、耐えて見せるという気持ちが彼、彼女たちにあれば、中野選手が証明したように基礎的な体力は一年のうちに目標値まで向上し、必ず強い選手に育つのではないだろうか。



時間があれば、すぐに補強トレーニング

表1 強化指定選手の身体的特徴と基礎体力

	ロサンゼルス(短距離)		自転車競技 ソウル(短距離)		シドニー(トラック)		スピードスケート(短距離) 長野		中野浩一選手		
	男	女	男	女	男	女	男	女	1978年	1979年	1980年
人数	20	18	2	4	4	1	10	6	-	-	-
年齢 歳	20.0	24.0	18.0	21.0	26.8	32.0	23.9	24.3	22	23	24
身長 cm	170.6	157.8	171.8	157.1	178.5	162.5	174.4	168.2	171.8	172.0	171.8
体重 kg	68.8	57.8	77.5	55.5	76.7	51.8	78.0	66.6	78.5	81.6	81.5
体脂肪 %	12.1	15.5	14.5	21.7	13.7	15.4	14.9	13.8	10.4	11.4	11.6
背筋力 kg	186.0	128.0	208.0	119.0	160.0	94.0	181.0	113.7	-	158.0	220.0
握力 kg	63.9	35.0	63.9	33.5	52.7	32.0	57.1	36.9	-	61.0	64.0
屈腕力 kg	-	-	-	-	27.4	16.0	-	-	-	-	-
立位体前屈 cm	17.0	18.0	19.0	18.8	19.5	17.4	20.0	20.9	-	-	-
上体ぞらし cm	-	-	-	-	44.9	42.0	48.1	59.5	-	-	-
反復横とび 点	48.0	44.0	50.0	42.0	40.3	45.0	51.6	43.8	-	-	-
垂直とび dm	65.0	48.0	60.2	45.5	60.9	41.0	72.8	53.0	69.0	-	-
肺活量 cc	4476	3113	4780	2975	5442	3090	5423	4000	-	-	-

※日本体育協会、日本オリンピック委員会資料より引用

伊藤超短波の製品が 日本を代表する選手たちを支えています。

最高のコンディションを保ち、ケガからはより早く回復すること。
医療の分野だけでなく、様々なスポーツの現場で、選手のサポートに
伊藤超短波の治療器が活躍しています。



AT-mini

AT ミニ ポータブル 低周波治療器

低周波治療器
管理医療機器(特定保守管理医療機器)
医療機器認証番号 220AABZX00344A01
※本医療機器は専門家の指導のもとにご使用ください

50g

超軽量

12時間

連続使用

3 COMB / PAIN / CARE

つの治療モード

鎮痛・治療

- COMB (鎮痛+治療) ALLタイムケア：トレーニングを終えた全てのアスリートに効果的。
- PAIN (鎮痛) ONタイムケア：トレーニング中など、現場で起こった急なアクシデントに。
- CARE (治療) OFFタイムケア：移動中や休憩中などの体を休めている時に。

製造
販売元



伊藤超短波株式会社

東京都練馬区豊玉南3-3-3 www.itolator.co.jp

メディカル事業部

本社：〒113-0001 東京都文京区白山1-23-15
TEL. 03(3812)1216(代)・FAX. 03(3814)4587

この選手は何歳で世界大会に出場するのか？

どんなスポーツ競技団体であっても現在は、一貫性スポーツ指導システムをとっている。日本の選手育成のほとんどは、学校スポーツを温床として育てていることが事実であり、情熱的な指導は高校3年間の指導のみで終わることがほとんどである。

表2には、2010年トラック世界選手権大会に出場した選手の、平均年齢を示した。この年はオリンピック2年前であるため、オリンピックにはこの年齢プラス2歳の年齢の選手が、ほぼ出場する計算になるだろう。ここから理解できることは、トラック競技に関してはおおよそ26歳あたりに、選手としてのピークパフォーマンスを持ってくることが、世界の現状であるということだ。ジュニア期にどのレベルまで、何をどれだけ向上させることが世界へつなげるためにベストなのか、指導者は悩むかもしれない。今年の沖縄インターハイでの4km団体追抜競走の優勝記録は、4分31秒229で、ギア比3.36と仮定すると、クランク回転速度平均128rpmである。一方で今回のジュニア世界選手権大会での、チームパシュート8チームの映像からクランク回転速度を算出してみると、平均128rpmである。このクランク回転速度が世界の団体追抜競走の至適クランク回転速度であると思えば、日本におけるジュニアのクランク回転速度は世界と同等であるとも考えることもできる。年齢的な発育発達の観点から見れば、ギア比をあげてパワートレーニングを実施する時期であるが、国内ジュニアのルール内での勝利を考えれば、これ以上にクランク回転速度を上げることは難しいにもかかわらず、クランク回転速度を向上させるトレーニングをまだ課さなければならない。しかし、国内の勝利よりも世界で活躍する選手を育成することを目標にする指導者たちは、クランク回転数が目標に到達すれば次は、大きなギア比が踏みこなせる体づくりに焦点を当てるだろう。そしてジュニア期にしっかりとした基礎的な考え方が理解できた選手はその後、クランク回転数の向上→高ギアへの対応→高ギアでのクランク回転数の向上→…の順序で様々なトレーニングをこなし、世界で戦える選手になるかもしれない。

ある雑誌の中で、日本の公的な強化はお粗末の一言で、これは昔からずっと変わっていないという文面があった。昔からなにも変わっていないといわれても、いまさら過去を変える気持ちはない。アジア大会の縦断的メダル結果（釜山大会15個、ドーハ大会6個、広州大会3個）からみれば、問題がどこにあるのか理解できると思う。ジュニア指導者たちは過去のトレーニング法に拘らずに、今から10年後、現在のジュニア選手たちが世界大会やオリンピックで活躍する姿を想像しながら、指導者たちが思いついたことや他のスポーツから取り入れたトレーニング法を実践しながら、今後も未来ある選手たちのために多くのバックアップを実施していかなければ、このまま世界との溝は深まるだろう。そのために私たちは、多くの情報を提案していきたい。今回は2010年トラックジュニア世界選手権大会の映像と記録を利用した、現場コーチによるレース分析と今後の展望に関して報告します。（JCF コーチ 佐藤孝之）



表2 トラック世界大会に出場する選手たちの平均年齢

	2010世界選手権大会	
	男子	女子
スプリント	24歳1か月	23歳4か月
タイムトライアル	22歳7か月	22歳11か月
個人追抜競走	26歳2か月	25歳0か月
団体追抜競走	22歳4か月	24歳3か月
チームスプリント	24歳1か月	23歳7か月
ケイリン	24歳8か月	24歳0か月
スクラッチ	25歳8か月	24歳0か月

2010～2011 UCIトラック・ワールドカップ 第1戦 日本代表選手団

大会名 2010～2011 UCIトラック・ワールドカップ 第1戦
開催場所 オーストラリア・メルボルン
大会期間 2010年12月2日～4日
派遣期間 2010年11月28日～12月6日
代表選手団

監督 阿部 道 (JCF 専任コーチ)
コーチ 吉井 功治 (JCF 強化コーチ)
メカニック 森 昭雄 (JCF 強化スタッフ)
マッサー 柳 浩史 (JCF 強化スタッフ)
総務 山田 克彦 (JCF 事務局)
選手 渡邊 一成 (JPCA・福島)
北津留 翼 (JPCA・福岡)
雨谷 一樹 (JPCA・栃木)
盛 一大 (愛知・愛三工業レーシングチーム)
前田佳代乃 (鹿児島・鹿屋体育大学)
田畑 真紀 (JPCA・ダイチ)

2010～2011 UCIトラック・ワールドカップ 第2戦 日本代表選手団

大会名 2010～2011 UCIトラック・ワールドカップ 第2戦
開催場所 コロンビア・カリ
大会期間 2010年12月16日～18日
派遣期間 2010年12月11日～22日
代表選手団

監督 阿部 道 (JCF 専任コーチ)
コーチ 村田 正洋 (JCF 強化コーチ)
メカニック 鬼原 積・森 昭雄 (JCF 強化スタッフ)
マッサー 柳 浩史・酒井 修 (JCF 強化スタッフ)
総務 山田 克彦 (JCF 事務局)
選手 渡邊 一成 (JPCA・福島)・新田 祐大 (JPCA・福島)
北津留 翼 (JPCA・福岡)・浅井 康太 (JPCA・三重)
柴崎 淳 (JPCA・三重)・脇本 雄太 (JPCA・福岡)
雨谷 一樹 (JPCA・栃木)
前田佳代乃 (鹿児島・鹿屋体育大学)
田畑 真紀 (JPCA・ダイチ)

競技大会 結果

大会名、チーム名等については略して記載

ツール・ド・おきなわ2010 (UCIアジアツアー-2.2) (2010/11/13-14 沖縄/名護他)

第1ステージ(個人TT 1.1km)

1	PALMER Thomas	ドフラック	1:27.11
2	品川 真寛	JPN 愛三工業	1:28.72
3	山本 雅道	JPN BSアンカー	1:29.66
4	福島 晋一	JPN クムサン	1:29.75
5	吉田 隼人	JPN 鹿屋体育大	1:30.46
6	向川 尚樹	JPN マトリックス	1:30.71
7	宮澤 崇史	JPN NIPPO	1:31.00
8	CHIANG Ssu Han	アクション	1:31.23
9	鈴木 真理	JPN シノ	1:31.39
10	HUANG Hsin Chang	ACT	1:31.40

第2ステージ(210km)

1	福島 晋一	JPN クムサン	5:30:43
2	伊丹 健治	JPN BSアンカー	5:30:43
3	清水 都貴	JPN BSアンカー	5:30:43
4	佐野 淳哉	JPN NIPPO	5:30:43
5	宮澤 崇史	JPN NIPPO	5:31:00
6	畑中 勇介	JPN シノ	5:31:00
7	品川 真寛	JPN 愛三工業	5:31:00
8	普久原 奨	JPN BSアンカー	5:31:00
9	CHU Fan Hsin	ジャイアントアジア	5:31:00
10	真鍋 和幸	JPN マトリックス	5:31:00

個人総合成績

1	福島 晋一	JPN クムサン	5:32:12
2	伊丹 健治	JPN BSアンカー	5:32:15
3	佐野 淳哉	JPN NIPPO	5:32:20
4	清水 都貴	JPN BSアンカー	5:32:22
5	品川 真寛	JPN 愛三工業	5:32:28
6	吉田 隼人	JPN 鹿屋体育大	5:32:30
7	宮澤 崇史	JPN NIPPO	5:32:31

8	畑中 勇介	JPN シノ	5:32:32
9	普久原 奨	JPN BSアンカー	5:32:33
10	真鍋 和幸	JPN マトリックス	5:32:37

団体総合成績

1	チームプリヂェストン・アンカー	16:37:01
2	チームニッポ	16:37:24
3	愛三工業レーシングチーム	16:38:52

女子国際ロードレース(100km)

1	SMALL Cerman	JAMIS	3:17:02
2	針谷千紗子	大阪 あさひ	3:17:10
3	高橋 奈美	宮城 SEKI	3:17:10
4	明珍 裕子	岐阜 朝日大学部	3:17:10
5	木村 亜美	鹿児島 鹿屋体育大	3:18:54
6	星川恵利奈	香川 湘南ハルマレ	3:18:55
7	森田 正美	神奈川 BSアンカー	3:18:55
8	金子 広美	東京 イナメアイト	3:18:57
9	米田 和美	北海道 ReadyGoJ.	3:21:32
10	塚越さくら	鹿児島 鹿屋体育大	3:21:32

ジュニア国際レース(140km)

1	WONG Chung Yan	HKG	4:03:46
2	小橋 勇利	愛媛 松山工業高	4:03:46
3	市山 襄	神奈川 法政二高	4:03:46
4	中田 瑛次	和歌山 和歌山北高	4:03:46
5	松原 創平	東京 チームオーベスト	4:03:46
6	馬場 博之	福岡 祐誠高校	4:03:46
7	六峰 亘	ロホレーシング	4:03:46
8	佐々木 康	宮城 かぶちゃん	4:03:46
9	面手 利輝	神奈川 横浜高校	4:03:46
10	一丸 尚伍	大分 大分車連	4:03:46

2010年UCI サイクルサッカーワールドカップ Final (2010/12/4 チェコ・Otrokovice)

サイクルサッカー

1	Gärtringen Matthias König/Uwe Berner	GER
2	Svitavka Jiri Hrdlicka/Radim Hason	CZE
3	Ginsheim Roman Müller/Marco Rossmann	GER
10	金剛東京 松田 鋼/木下直也	JPN

第14回ツアー・オブ・サウスチャイナシー(UCIアジアツアー-1.2) (2010/12/12 中国・チャイ)

個人ロードレース(80km)

1	盛 一大	愛知 愛三工業	2:00:30
2	CHOI KI HO	HKG	2:00:30

3	DAVIS SAMUE	PER	2:00:30
5	西谷 泰治	愛知 愛三工業	2:01:27
12	吉田 隼人	奈良 鹿屋体育大	2:01:54
18	清水 都貴	埼玉 BSアンカー	2:01:54
24	窪木 一茂	福島 日本大学	2:02:05
60	海藤 稜馬	山形 エルトロード	2:04:52

団体成績

1	HSBC HONG KONG TEAM	6:02:47
2	日本ナショナルチーム	6:03:51
3	SHANDONG TEAM	6:05:42

2010シーズンシクロクロスナショナルレギュレーションズ

男子U17総合ポイント

1	丸山 厚	長野 MASSA	32,900
2	辻浦 圭一	奈良 BSアンカー	29,700
3	小坂 光	長野 BLITZEN	11,300
4	小坂 正則	長野 スワレーシング	8,600
5	竹之内 悠	京都 ユーリアムセウ	5,125
6	池本 真也	神奈川 和光機器タマ	2,225
7	山本 聖吾	長野 スワレーシング	1,925
8	大塚 潤	静岡 Acqua Tama	1,225
9	斉藤 亮	長野 チームテック	2,500
10	畑中 勇介	東京 シノレーシング	1,025

男子U23総合ポイント

1	武田 耕大	埼玉 ARAI	8,100
2	木村 圭佑	滋賀 京都産業大学	7,200
3	伊澤 広大	滋賀 Bee club 138	625
4	河賀 雄大	広島 広島城北高校	400
5	伊勢 洋人	大阪 大阪産業大学	225

女子総合ポイント

1	豊岡 英子	大阪 パナニックL.	28,800
2	武田 和佳	埼玉 ARAI	19,250
3	宮内佐季子	静岡 CLUB viento	19,400
4	福本 千佳	大阪 Ready Go J.	5,200
5	山口 博子	石川 パワーテック	3,825
6	片山 梨絵	神奈川 Specialized	3,600
7	中道のぞみ	京都 Salata bianca	1,700
8	埜真 賢美	岡山 Team クルーズ	1,300
9	齋藤 慶実	神奈川 TEAM-MASA	900
10	東 陽子	京都 Team Johnny	400

ツアー・オブ・サウスチャイナシー 日本代表選手団

大会名 ツアー・オブ・サウスチャイナシー (UCI アジアツアー-1.2)
開催場所 ホンコン・チャイナ
大会期間 2010年12月12日
派遣期間 2010年12月9日~13日
代表選手団

- 監督 高橋 松吉 (JCF強化コーチ)
- メカニック 中村 仁 (JCFロード競技部会支援スタッフ)
- マッサージ 森 典隆 (JCFロード競技部会支援スタッフ)
- 選手 西谷 泰治 (愛知・愛三工業レーシング)
- 盛 一大 (愛知・愛三工業レーシング)
- 清水 都貴 (埼玉・チームプリヂェストンアンカー)
- 窪木 一茂 (福島・日本大学)
- 海藤 稜馬 (山形・エルトロード)
- 吉田 隼人 (奈良・鹿屋体育大学)

2010年世界室内自転車競技選手権 日本代表選手団

大会名 2010年世界室内自転車競技選手権大会
開催場所 ドイツ・シュツットガルト
大会期間 2010年11月26日~28日
派遣期間 2010年11月20日~30日
代表選手団

- チームリーダー 佐藤 康彦 (京都)
- コーチ (サイクルサッカー) 宮川 廣平 (兵庫)
- コーチ (サイクルフィギュア) 濱田美穂子 (京都)
- 選手 ●サイクルサッカー
- 時倉 宗大 (神奈川)・藤田 洋介 (東京)
- 村上 裕亮 (大阪)・合田 昌司 (大阪)
- サイクルフィギュア
- 芦田 史朗 (滋賀)・芝山 耕輔 (東京)
- 佐藤 凧沙 (京都)

国内自転車競技場の紹介 (その10)

競技場名：兵庫県立明石公園自転車競技場
 住所：兵庫県明石市明石公園1-27
 電話：078-912-7600
 周長：400 m
 幅員：7.9 m
 路面傾斜：(最大) 30°
 ホームページ：
<http://www.hyogo-park.or.jp/akashi/>



●強化指定選手の追加について

<強化育成選手>

トラック短距離 女子エリート
 加瀬加奈子 (新潟・CULUB SPIRITS)
 中川 諒子 (新潟・CULUB SPIRITS)

<強化指定選手>

トラック中距離 女子エリート
 田畑 真紀 (JPCA・ダイチ)
 ロード男子エリート
 畑中 勇介 (東京・シマノレーシングチーム)
 福島 晋一 (JPCA・クムサンジンセンアジア)

評議員の変更について

平成 22 年度第 2 回理事会(H22.11.24)で承認されました。

長崎県自転車競技連盟

(新) 右田 徹 ← (旧) 永田 学

(仮称)伊豆ペロドローム メモリアルプレート参加者募集

日本 CSC では日本初の屋内型板張り 250m 自転車競技場の誕生を記念して、皆さんの名前を刻んだメモリアルプレートをペロドローム内に設置します。詳しくは www.izuvelodrome.jp へ。
 参加費用 ¥5,000 / 1 枚 (税込み)

1 月下旬～ 3 月下旬の大会

期 日	大会 名	種 目	場 所
1月21日～23日	2010-2011UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#3	TR	中国/北京
1月29日～30日	2011年シクロクロス世界選手権大会	CX	ドイツ/ザンクトヴェンデル
2月9日～19日	第31回アジア自転車競技選手権大会	TR・RR	タイ/ナコンラチャシマ
2月9日～19日	第18回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会	TR・RR	タイ/ナコンラチャシマ
2月18日～20日	2010-2011UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#4	TR	イギリス/マンチェスター
3月23日～27日	2011年トラック世界選手権自転車競技大会	TR	オランダ/アペルドールン
3月27日～29日	平成22年度全国高等学校選抜自転車競技大会	RR・TR	熊本/山鹿・福岡/北九州

連盟の動き (11月中旬～12月中旬)

11月10日	平成 22 年度第 4 回広報委員会・広報部会合同会議	於：東京・日本自転車会館 3 号館 3 階
12日	平成 22 年度第 5 回常務理事会・選手強化本部会	於：東京・日本自転車会館 3 号館 4 階
20日	2010 年世界室内自転車競技選手権日本代表選手団出発	於：ドイツ・シュツットガルト 帰国→11/30
24日	平成 22 年度第 2 回理事会	於：東京・日本自転車会館 3 号館 4 階
28日	10-11年トラックワールドカップ第 1 戦日本代表選手団出発	於：オーストラリア・メルボルン
29日	第 4 回 JCF 法人改革検討委員会	於：東京・日本自転車会館 3 号館 4 階
12月6日	平成 22 年度第 5 回広報委員会・広報部会合同会議	於：東京・日本自転車会館 3 号館 4 階
9日	ツアー・オブ・サウスチャイナシー日本代表選手団出発	於：中国・広州 帰国→12/13
11日	10-11年トラックワールドカップ第 2 戦日本代表選手団出発	於：コロンビア・カリ 帰国→12/22
15日	第 2 回ジュニアトレーニングキャンプ	於：沖縄 (～12/20)

夢への補助輪。 RING!RING!プロジェクト
 競輪の補助事業



Medalists, 16th Asian Games



< JCF オフィシャル・スポンサー >



< JCF オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.176 2010年12月 / 2011年1月合併号

発行 / 財団法人日本自転車競技連盟

発行人 / 岩楯 昭一

編集人 / 井関 康正

編集事務局 / 財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内

TEL03-3582-3713 FAX03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>